



# “人間はいかにして自律的思考を形成しうるか？”

准教授 藤井 基貴 (教育哲学・道德教育)

1975年12月生まれ。2005年名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程修了、2007年名古屋大学高等教育研究センター特任講師、2008年静岡大学教育学部准教授。

## 研究概要

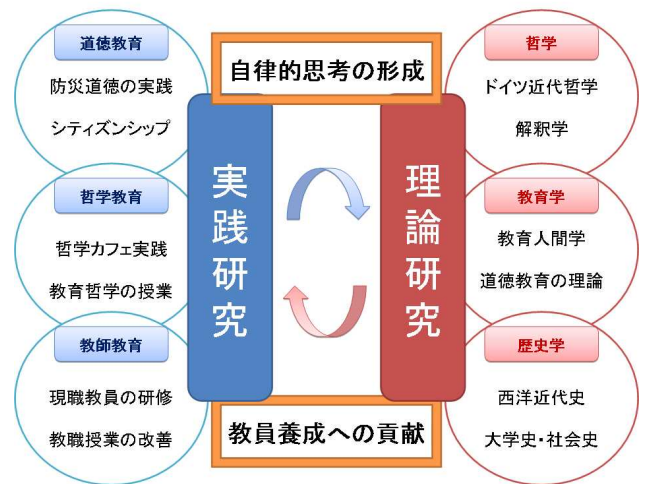
### ①理論研究

近代ドイツを中心として教育学がどのように学問的な発展を遂げてきたのか、大学における教員養成がどのような理念や哲学に基づいて制度化されてきたのかを研究しています。近年では、本学の姉妹校であるネブラスカ大学オマハ校のHalla Kim教授らとともにドイツ哲学に関する国際共同研究ならびに日本における西洋哲学の受容史・影響作用史に関する研究にも取り組んでいます。

### ②実践研究

「自律的思考」(Selbstdenken)を鍵概念として、その形成を目指す教育活動に関する実践的な研究を進めています。具体的には、研究室の学生たちと主体的な判断力や行動力を育成するための教育プログラム(「防災道德」授業、ユースカレッジ、「リベラルアーツカフェ」の実践等)を開発して、授業やイベントを実施しています。

上記①、②を通して、教育学における「理論と実践の往還」をはかるとともに、より質の高い教員の養成に力を注いでいます。



## メッセージ

大学時代は哲学を学び、大学院進学後は教育学を専攻し、前職では高等教育の研究に従事し、本学に着任してからは教育哲学と道德教育を専門領域として研究活動を進めてまいりました。2010年度からは研究室の学生たちと共に防災教育や道德教育に関する教材および授業開発に取り組んでいます。

私の研究室では「Footwork & Network」、「Challenge & Change」、「Response & Responsibility」の三つを柱として、学生たちがどん欲に学び、行動することを奨励・応援しています。これまでに研究室に所属した学生たちの多くは、在学中に学校訪問活動や海外留学を経験し、卒業後も学校や保育園などの教育の場で実践を重ねています。今後も理論研究と実践研究を両輪として、地域に根ざしながら、世界を展望できるグローバルな人材の育成に貢献できたらと思います。

### 【主な研究業績】

**受賞歴:** 日本乳幼児教育学会「研究奨励賞」(2006)、教育史学会「研究奨励賞」(2012)、兵庫県ほか主催ぼうさい甲子園「教科アイデア賞」(2013)、大学教育改革フォーラム in 東海 2013「優秀ポスター賞」(2013)。

**外部資金獲得状況:** 科学研究費補助金若手研究(B)「教員養成カリキュラムの「理論と実践の統合」に関する史的研究」(2009-2011)、若手研究(B)「近代ドイツにおける「衛生学・衛生教育」の誕生と普及に関する歴史的研究」(2012-) 大学ネットワーク静岡・科学交流フォーラム「脳科学から子育て・学校教育を考える」(2010)、JST 地域の科学舎推進事業「静岡の郷土工芸との対話」(2010)  
**委員等:** 文部科学省・中央教育審議会「初等中等教育分科会」専門委員(2011-)、静岡県教育委員会「道德教育推進協議会」座長(2009-)

**著書・論文:**  
1) 「18世紀ドイツにおける子育ての近代化—ファウスト『衛星問答』に注目して—」『日本の教育史学』教育史学会編、55集、2012年、85-97頁。  
2) 共著『西洋世界と日本の近代化—教育文化交流史序説—』大学教育出版、2010年。  
3) 共著『日本カント研究<7>ドイツ哲学の意義と展望』日本カント協会編、2006年ほか。